ShinSei

SDGs Report 2024

真誠グループSDGsレポート

サステナビリティポリシー

**人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる社会をつくる。**

真誠グループは、「健康文化を世界に広げ社会に貢献する」のミッションを掲げ、
その信念を社員一人ひとりが持ち、人も、地球も、健康に生き続けられる社会を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

トップメッセージ

真誠グループは創業以来、真心と誠実を貫き通すことを根幹とし、人々の健康を心から願い、その事自体に喜びを見出す企業でありたいと考えており、食を通じた社会貢献を目指してまいりました。コーポレートメッセージとして「すべての人を笑顔にしたい」と定め、それを我々の存在意義としています。

そのためにも、事業活動によって生じる様々な社会課題に目を向けることは当然の務めであり、食品メーカーとして「気候変動を意識したマネジメント」「食品ロス削減」「食育」を柱とした取り組むべき課題を定めて活動しています。

地球温暖化をはじめ世界規模の課題解決が必要な中、企業においても気候変動を意識したマネジメントが求められています。あらゆる業務プロセスにおいて環境への配慮を取り入れることは極めて重要です。カーボンニュートラルに向けた取り組みとしては、エネルギーや水資源の使用効率向上による脱炭素化や、その視える化を実践してまいります。また、廃棄物の削減や物流の船舶モーダルシフトへの取り組みにおいて、温室効果ガスの排出量削減を進めています。

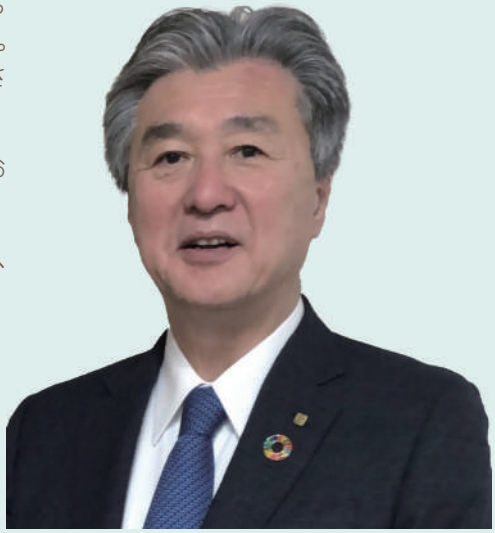
食品ロスの削減においては、生産過程における原料ロスを削減し、食品廃棄物の発生量を減少させる活動に取り組んでいます。改善活動の実践による加工歩留の向上のみならず、生産時のこぼれ低減や様々な要因による原料や加工品の廃棄削減を目指しています。また、製品の賞味期限延長や年月表示により、家庭内の食品ロスにもつなげたいと考えています。

食育については、子ども向けの「ごますり体験」が食育プログラムとして高い評価を頂いています。ゴリゴリという手応え、すり鉢ですする音、ごまをすった瞬間にはじける香ばしい香り、すりたてのごまのおいしさ、いりごまからすりごまに変わる様子など、子どもの五感を刺激する体験となります。一生懸命すったごまをかけて食すれば、いつもの和え物が立派な自分の料理になるので、いつも以上に野菜を食べるようになったとの体験談も沢山お聞きしています。今後も積極的に食育活動を続けてまいります。

これらの取り組みを通して、環境と社会に対する責任を持ちながら、サステナブルなビジネスの実現を目指し続けます。そして、真誠グループがすべてのステークホルダーから愛される企業になるよう活動してまいります。

本レポートにおいて、2024年の活動報告をさせて頂いております。

是非内容をご確認頂き、引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長　冨田 博之

重要課題（マテリアリティ）

環境への取り組み

- 食品ロス削減
- 資材ロス削減
- 環境に配慮した食品生産

社会への取り組み

- 国内外の子ども支援
- 健康価値の追求
- 産地との共生
- 食の安全と安心

経済への取り組み

- ごまの新たな価値の創造
- 働き方と多様性

バリューチェーンと SDGs の取り組み

企業価値のつながりの各段階でSDGsの取り組みを実践しています。

研究・開発	調達	生産	物流	販売	お客様
サステナブルな原料調達の研究や、未利用資源の活用を目指す研究 機能性表示食品・栄養機能食品の製品開発	フェアトレード認証ごま原料の調達 パッケージの環境配慮環境配慮資材の採用 賞味期限の延長年月表示への切り替え	産業廃棄物の発生量を削減 原料ロスの削減による食品廃棄物発生量の削減 生産過程で生じる食品残さの有効利用	船舶モーダルシフトの取り組みによる物流の効率化 帳票のデジタル化による紙資源の削減	機能性表示食品・栄養機能食品の販売 大豆たん白など新素材を活用した製品の販売促進 WFPレッドカップキャンペーンを通じた食糧支援	「ごますり体験」などの食育活動やイベントの実施 お客様の声を活用した商品改善 健康関連の問い合わせに対する情報提供

サステナビリティを支える基盤

- 食品の安全と品質に関する予防及び監視
- 有給休暇の取得推奨
- デジタルトランスフォーメーションの推進
- ワークフローの推進

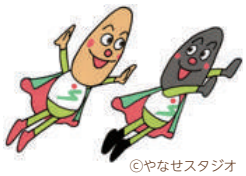
SDGs 活動のあゆみ

2021
- CSR・SDGsに関わる専任部署を新設
- SDGsに関連する自社の活動を棚卸

2022
- 各部門でグループワークを実施し優先課題を決定
- 重要課題（マテリアリティ）を特定
- 『真誠グループ SDGs宣言』の制定
- 長期・中期・短期目標の設定

2023
- 目標を経営に組み込み実践がスタート
- 各部門で四半期ごとに意見交換会を開催
- 活動結果の取りまとめ

2024
- 2025年中期目標、2029年長期目標の達成に向けた取り組みの実践
- 四半期ごとにSDGs活動到達状況表で進捗を報告



©やなせスタジオ

オリジナルキャラクター
シロゴマンとクロゴマン

環境への取り組み Environment

食品ロスの削減

関ヶ原工場と名古屋工場では、生産時の原料落ちこぼれや残渣が発生している箇所を洗い出し、原因の分析や効果的な改善を継続しています。

混合機の排出口（関ヶ原工場）

2024年度は両工場で、食品ロスの発生量を2,751kg削減しました。食品残渣の一部は食品リサイクル事業者に提供し、飼料や肥料として利用しています。

機械のすき間を改造することで、ごま原料の落ちこぼれを防ぎ、食品ロスの発生量を抑えます。

CO_2フリー電気を導入し脱炭素化に貢献

関ヶ原工場と名古屋工場では、2023年11月から中部電力ミライズのCO_2フリー電気「ミライズGreenでんき」を導入しています。地球環境にやさしい電力の使用を通じて、生産における脱炭素化に取り組んでいます。

※CO_2フリー電気とは
水力や風力発電などの再生可能エネルギーを利用して発電されたCO_2を排出しない電力です。

ミライズGreenでんきのポスター

環境配慮型製品の拡充

水性インキやバイオマスインキを使用した環境配慮型の包材を積極的に採用し、製品ラインナップの拡充に取り組んでいます。2024年12月時点で35アイテムの製品を環境配慮型の包材に切り替えました。
森林の環境保全に寄与するFSC認証の段ボール資材採用や、農薬や化学肥料を使用しない有機JAS認証など、環境に配慮した製品づくりを目指し第三者認証の取得に取り組んでいます。

●水性インキを使用した製品の一例

うまかあじすりごま金 50g

●第三者認証を取得した製品の一例

純おいしいねりごま白パウチ 110gの中箱

廃棄物の削減

生産およびサプライチェーンにおける廃棄物の削減に取り組んでいます。これまで製品の保管や運搬で使用したストレッチフィルムをRPF※化し、製紙工場で燃料として再生利用してきました。2024年5月から、ストレッチフィルムの使用数を記録し、各現場の現状把握に努めるとともに、巻き方の見直しを実施しながら廃プラスチックの排出量を削減しています。

※RPFとは
くず紙や廃プラスチックからつくられるリサイクル燃料です。

トピック

ごまの表皮を利用したアップサイクル製品の開発

皮むきごまの製造工程（ごまの脱皮）から出た表皮をバイオマスプラスチックとして再資源化したアップサイクルの文具（定規）を製作しました。今後、ごまの産地の学校に文具を寄贈し、子どもたちに活用してもらうことで教育的な支援を進めます。

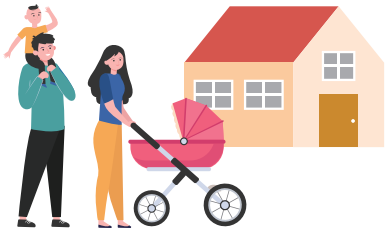
アップサイクルの文具（定規）

ごまの表皮

ごまの表皮20%配合

ほんのりごまの香り

社会への取り組み Social



食育活動の継続と発展

子どもが五感を使って楽しく食のプロセスに関われる食育プログラム「ごますり体験」に取り組んでいます。食育活動の全国展開に向け「ごますり体験講師」の育成マニュアルを作成し、各事業所（6営業所、1テーマ館）に講師を置く取り組みを進めています。体験者を着実に増やしながら、2029年までに累計２万人に食育の体験効果を実感してもらうことを目指しています。これからも、ごまを通じた食育活動に取り組み、子どもたちの心と体の成長支援に貢献してまいります。

胡麻の郷で初の企画展『ときめぐり展』を開催

9月14日～23日、イラストレーター51名による作品を展示した企画展「ときめぐり展」を開催しました。このイベントは岐阜県西濃地域をテーマにしたイラストを集めたグループ展です。開催期間中は多くの方々にご来場いただき、企画展をお楽しみいただきました。これからもアーティストの活躍の場を提供するとともに、地域社会との絆を深める取り組みを進めてまいります。

子ども食堂と体験型の食育イベントを開催

11月9日、あいち野菜でつながるプロジェクトとわいわい子ども食堂による共同イベント「めざせクッキングマスター！！体験型子ども料理教室」を愛知調理専門学校で開催しました。子ども食堂とのコラボイベントは今年で4回目となり、小学3年生から6年生までの計48名が参加。子どもたちは、おにぎらず、サラダチキンで作るバンバンジー、野菜入りみそ玉みそ汁の調理を体験しました。料理の経験が少ない子どもでも参加しやすいよう、いずれのメニューも包丁や火を使わずに調理できる内容となっています。

WFPウォーク・ザ・ワールド2024に参加

国連WFP協会が主催するチャリティーイベント「WFPウォーク・ザ・ワールド」に2023年から参加しています。イベント参加費の一部が寄付金となり、途上国の子どもたちの学校給食支援に役立てられます。2024年は、横浜（5/12 みなとみらい）、大阪（5/19 万博記念公園）、名古屋（6/2 鶴舞公園）の3会場で社員とその家族17名が参加しました。

トピック

ペットボトル飲料のキャップを回収し世界の子どもにワクチンを

本社に設置している自販機で購入されたペットボトル飲料のキャップを回収し、リサイクル業者に提供しています。このキャップは、途上国の乳幼児がかかりやすい病気「ポリオ」を予防するワクチンに役立てられています。
これまでに提供したキャップの数は38,629個。子ども45人分のポリオワクチンを届けることができました。

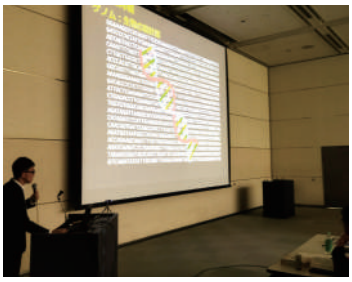
本社で回収したペットボトルのキャップ

累計 **38,629個**

経済への取り組み Economy

第39回日本ゴマ科学会大会

第39回日本ゴマ科学会大会が、10月19日に名古屋国際会議場で開催されました。本大会は、ごまに関する研究の推進と知識の普及を目的に、年に一度開催され、研究成果の発表や講演が行われます。今年度は当社が実行委員として運営に携わり、SDGsを主要テーマとした講演の企画を進めました。
大会当日には、冨田社長が「全国胡麻加工組合の現状とこれから」について講演し、続いて岐阜大学の先生が「フードロス削減を目指した食品加工」について講演。石川県立大学や富山大学の学生による遺伝子研究に関する発表も行われました。さらに、国連WFP協会からは「国連WFPとゴマの関わり、アフリカ飢餓撲滅の鍵」、名古屋短期大学の先生が「ごますり体験による食育で楽しく食べる子どもを育てる」と題した講演をされるなど幅広いトピックが取り上げられた大会となりました。



大豆たんぱく加工製品の提供

大豆の加工で生じる副産物を再利用した「大豆たんぱく加工製品」の普及に努めています。環境への配慮と人々の健康促進を図り、食の付加価値を高めることを目指してまいります。

大豆フレーク

健康経営の取り組み

有給休暇の取得促進や喫煙率低下（業務時間内禁煙）、保健指導実施機会の提供などに取り組み、健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）の認証を受けました。
2023年10月から時間単位で有給休暇を取得できる制度を導入し、より柔軟に働ける環境づくりに努めています。各種定期健康診断は継続して完全実施しており、健康診断の受診率は100%を維持しています。
これからも、従業員一人ひとりの健康を守り続ける企業を目指してまいります。

有給休暇取得率　2021年 69% ▶ 2024年 72.9%
（使用数÷有給休暇附与日数　在籍者のみ）

健康診断受診率　100%

トピック

エコ通勤の実践

CSR･SDGs担当者の声

2021年10月から毎日の通勤を兼ねて運動不足が解消できる自転車通勤を始め、2024年12月までの総走行距離は4,700㎞に達しました。この距離を自動車で移動した場合、719,100g※のCO_2を排出していたことになります。これからも地球環境に優しいエコ通勤を続けていきます。
（※自動車の走行距離1㎞あたりのCO_2排出量を153gで試算）

総走行距離
2021年10月～2024年12月
4,700㎞

活動報告

真誠グループSDGs宣言の制定を受け、2023年より全社すべての部門でSDGs活動を開始しました。今年度も社員間の対話を通じて、各部門で具体的な取り組みを実践しています。2030年の持続可能な社会の実現に向けて、引き続き努力してまいります。

生産本部

関ヶ原工場

活動内容	産業廃棄物の削減
2029年までの長期目標	原単位0.0300（2019年比で26%以上削減）
2024年の目標と結果	目標 産業廃棄物に関する業務の優先順位一覧を基に、廃棄物の削減手段を検討し実施する 結果 ねりごま残渣は生産計画の見直しを行い、前年の排出量より1,443kg削減することができた。汚泥については、放流水の水質を確認しながら対策を進めた結果、前年の排出量より11,440kgと大幅に削減することができた。

評価判定：到達

名古屋工場

活動内容	産業廃棄物の削減
2029年までの長期目標	原単位0.0195（2019年比で26%以上削減）
2024年の目標と結果	目標 産業廃棄物に関する業務の優先順位一覧を基に、廃棄物の削減手段を検討し実施する 結果 産業廃棄物削減に関する業務を18件洗い出し、そのうち優先度の高い4件とその他2件の計6件に着手した。特に、ストレッチフィルムと搬送用ホースの使用量削減については目に見える成果を上げることができた。

評価判定：到達

業務本部

基礎研究チーム

活動内容	サステナブルな原料調達に関する研究
2029年までの長期目標	付加価値の高いブランドごま製品の開発を継続
2024年の目標と結果	目標 付加価値の高いブランドごま製品の開発を継続 結果 交配世代は3世代まで進んだ。マーカーも見ながらの選抜であるため、次年度に優良系統プロトタイプの品種登録ができる段階まできた。品種登録を目指した活動を次年度に行う。DNAマーカーは5件得られた。

評価判定：持越し

活動内容	廃棄物や未利用資源の活用を目指す研究
2029年までの長期目標	得られた知見を用いた製品開発の試作・研究の着手
2024年の目標と結果	目標 基礎研究の継続　得られた知見を用いた製品の試作・研究の継続および新規着手 結果 2022年当初に対して、試作研究は発酵関連の試作で3件新規着手し、内2件を継続している。新規機能性関与成分については4種類の成分が同定できた。絶対配置、合成確認などの構造決定は0件。

評価判定：持越し

品質管理チーム

活動内容	お客様サービス係：機能性表示食品・栄養機能食品・その他健康に関する問い合わせに対し、分かりやすい説明、情報を提供する
2029年までの長期目標	作成した資料を必要に応じ更新し改良していく
2024年の目標と結果	目標 月1回、製品の特長や問合せ状況を確認し協議する 結果 全ての製品カテゴリー（分類1 ～ 4）における、お客様からの問い合わせ内容を合計で188件抽出。チーム内で各自が説明方法を考え会議の場で発表し協議した。それらの説明方法をまとめ整理できたことで活動予定どおりの達成となった。

評価判定：到達

業務本部

食品安全管理チーム

活動内容	食品の安全と品質に関する予防及び監視
2029年までの長期目標	食品安全を含めた品質保証体制の維持・向上
2024年の目標と結果	**目標** 食品安全を含めた品質保証体制の維持・向上 **結果** 内部監査および2025年目標設定準備の実施、外部更新審査受審により品質保証体制を維持。

評価判定：到達

企画・購買チーム

活動内容	パッケージの環境配慮
2029年までの長期目標	NB製品で環境配慮資材の採用50%
2024年の目標と結果	**目標** 個装袋のフィルムの薄肉化（15アイテム以上） **結果** 21アイテムの材質変更を実施し目標を達成（目標達成率140%）。これにより、2023年出荷ベースの試算で樹脂の使用量が1,717kgの削減となる。

評価判定：到達

企画・開発チーム

活動内容	保健機能食品の製品開発
2029年までの長期目標	2022年度比で5品以上追加
2024年の目標と結果	**目標** 2022年度比で1品以上追加 **結果** 薬品メーカーによる機能性表示食品の健康被害発生によって法律が改正され、消費者庁の審査がより厳格になった事で、本年内に承認を得ることができなかった。 引き続き、新製品の発売に向けて、消費者庁からの指摘事項に対応しながら開発を進める。

評価判定：持越し

営業支援チーム

活動内容	ごますり体験授業の活動継続と全国的な展開
2029年までの長期目標	ごますり体験授業を通じて、食育推進の効果による影響を与えた人数を、現在（2022年）の1716人から2万人まで増やす。
2024年の目標と結果	**目標** 各場所にて「ごますり体験授業」の講師選定と実施候補リストアップ及び実施 **結果** 各営業部に対し食育に関心の高い企業のリストアップを依頼し実施候補先を選定した。今期は、営業部で2件、胡麻の郷で2件、さらに幼稚園や大学、各地区のイベントなどで「ごますり体験」を実施（2023年1月から2024年12月までの体験者数は合計3,140名）。各出先で講師候補の決定までには至らなかった。

評価判定：持越し

物流チーム

活動内容	紙資源の削減
2029年までの長期目標	ペーパーレス化に向けた帳票のデジタル化（3帳票）
2024年の目標と結果	**目標** ペーパーレス化に向けた帳票のデジタル化（1帳票） **結果** 基幹システムのプログラムは完成し、現在テスト運用を実施中。運用開始は2025年2月頃予定。今後、基幹システムの移行により各帳票類がPDF化されることから削減できるようになる。 印刷物の削減に向けた取り組みとして、使用済み用紙の裏面活用や、不要となった応用フォームをA4サイズに切り揃え再利用する活動を継続。この取り組みにより、年間で約20万円のコスト削減につながっている。

評価判定：持越し

胡麻の郷

活動内容	幼稚園や保育園児を対象とした「ごますり体験」の実現
2029年までの長期目標	累計で10回の実行を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 「ごますり体験」の実施 **結果** 10月と11月に関ヶ原町内の2つの保育園から園児を招き「ごますり体験会」を実施。参加した園児たちから予想以上に好評を得られたことで、食育体験の成功を実感することができた。今後は、親子で参加できるイベントの開催も検討し、地域に開かれた施設運営を推進していく。

評価判定：到達

営業本部

北海道・東北営業部

活動内容	機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進
2029年までの長期目標	2021年度比160%(2,728ケース)の販売を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 2021年度比123%(2,100ケース)の販売を目指す **結果** 実績1,736ケース。高たんぱくきなこと黒ごまアーモンドきなこは、数量は小規模ながらも定番導入が寄与し伸長。だし香るごまあえの素は、一部の取引先において定番カットや販促の機会が減少しマイナス要因となった。来期も長期目標の達成に向けて、定番の導入や販促を増やすことに一層注力していく。

評価判定：未到達

関東営業部

活動内容	機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進
2029年までの長期目標	2021年度比160%(3,221ケース)の販売を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 2021年度比134%(2,800ケース)の販売を目指す **結果** 実績2,715ケース。高たんぱくきなこと黒ごまアーモンドきなこは前年割れ。その主な要因は秋以降の主要取引先における定番カットと販促機会の減少。だし香るごまあえの素は定期的な販促提案や関連販売により前年実績を越えた。引き続き、だし香るごまあえの素を中心に保健機能食品の販売に注力していく。

評価判定：未到達

中部営業部

活動内容	機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進
2029年までの長期目標	2021年度比160%(2,502ケース)の販売を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 2021年度比132%(2,065ケース)の販売を目指す **結果** 実績1,932ケース。高たんぱくきなこと黒ごまアーモンドきなこは、定番の取り扱い企業が増加したことにより順調に推移。だし香るごまあえの素は、特売等の販促が減少したことにより前年を下回る結果となった。

評価判定：未到達

近畿営業部

活動内容	機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進
2029年までの長期目標	2021年度比160%(5,590ケース)の販売を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 2021年度比132%(4,614ケース)の販売を目指す **結果** 実績4,793ケース。だし香るごまあえの素は野菜売場で関連販売を継続に実施し順調に推移。黒ごまアーモンドきなこは定番の販売が順調で前年実績を越えた。高たんぱくきなこも大手企業で新規の定番導入等により前年実績を越え、導入企業での販促を継続している。各製品共に定番導入が進んでおり、販促を含め更なる販売の拡大を目指す。

評価判定：到達

中四国営業部

活動内容	機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進
2029年までの長期目標	2021年度比160%(2,109ケース)の販売を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 2021年度比132%(1,740ケース)の販売を目指す **結果** 実績1,601ケース。高たんぱくきなこは新規導入や販促で好調に推移。だし香るごまあえの素は春先に大口取引先での定番カットの影響を受けたが、その他の企業で新規採用となり秋冬にかけて巻き返しを図ることができた。ごま和えの素の競合品が強い地域だが、更なる販促強化に努めたい。定番導入企業や取り扱い店舗数を増やし店頭での露出強化を図っていく。

評価判定：未到達

九州営業部

活動内容	機能性表示食品・栄養機能食品など健康に配慮した製品の販売促進
2029年までの長期目標	2021年度比160%(3,446ケース)の販売を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 2021年度比130%(2,800ケース)の販売を目指す **結果** 実績2,730ケース。だし香るごまあえの素は什器を使用した店頭露出で季節の野菜に関連した販売を強化。年間を通じ販促に努めたが野菜価格高騰の影響もあり実績が伸び悩んだ。高たんぱくきなこは定番取り扱い企業の実績が順調に推移し前年実績を二桁以上伸長。今後も3製品の露出強化と定番化に注力する。

評価判定：未到達

特販部

活動内容	大豆たん白など新素材を活用した製品の販売促進
2029年までの長期目標	28,160kgの出荷量を目指す
2024年の目標と結果	**目標** 17,500kgの出荷量を目指す **結果** 実績7,840kg。上期は大豆フレーク等新素材の販売は順調に推移していたが、下期は既存の取引先において売上が低迷。新規取引先の獲得が進まなかったことも実績が伸び悩む要因となった。現在、新規取引先の獲得に向けた提案を強化している。

評価判定：持越し

経営管理本部

経理チーム

活動内容	デジタルトランスフォーメーションの推進
2029年までの長期目標	イノベーションによる事務生産性向上　有給休暇取得義務化日数＋6日以上を全員が確実に取得
2024年の目標と結果	**目標** 電帳法の作業効率化検討と法令遵守フォロー　有給休暇取得義務化日数+2日以上を全員が確実に取得 **結果** 電帳法の法令遵守フォローは、4～9月に及ぶ活動により目標を達成することができた。有給休暇取得に関する取り組みについては、電帳法の作業効率化では叶えることはなかったが、その他の経理業務の改善活動により休暇を取得することができ、2024年の短期目標に全て到達した。 評価判定：到達

情報管理チーム

活動内容	ワークフローの推進
2029年までの長期目標	ワークフローの推進（5帳票）
2024年の目標と結果	**目標** ワークフローの推進（3帳票） **結果** 今期、2帳票のワークフロー化とリリースを実施。2帳票ともに問題なく運用が進められていることを確認した。これにより短期目標（3帳票）を達成した（2023年：1帳票、2024年：2帳票）。 評価判定：到達

総務チーム

活動内容	有給休暇の取得推奨
2029年までの長期目標	有給休暇取得率75%（1/1～12/31 使用数÷有給休暇附与日数 在籍者のみ）
2024年の目標と結果	**目標** 生産職有給休暇新制度の導入準備 **結果** 生産職有給休暇新制度の説明会実施など有給休暇の取得促進に向けて制度変更の準備と周知を行い、2025年4月からは半日有給休暇制度が開始予定となっている。 有給休暇取得率72.9%（対象：2024年1月1日～12月31日　真誠グループ全体　使用数÷有給休暇附与日数　在籍者のみ）。 評価判定：到達

CSR・SDGs

活動内容	国連WFP協会を通じた食糧支援活動の維持・発展
2029年までの長期目標	食糧支援活動の維持・発展（社外ステークホルダーとの協働）
2024年の目標と結果	**目標** WFPレッドカップキャンペーン対象製品の認知拡大。小売業1社以上で売場展開。 **結果** 数社の小売業で対象商品を集めた特設売場が設置されたが、当社対象商品の売場展開までには至らなかった。食品展示会では、営業部の協力によりレッドカップキャンペーンをPRすることができ一定の成果を上げることができた。今後も営業部と連携しながら対象製品の認知拡大と売場展開に取り組んでいく。 評価判定：持越し

全社

全部門

活動内容	「あいち野菜でつながるプロジェクト」などによる子どもの食育支援活動
2029年までの長期目標	社外企業・団体との協働による食育イベントを継続（年1回）
2024年の目標と結果	**目標** 社外企業・団体との協働による食育イベントを開催（年1回） **結果** 11月9日、愛知調理専門学校にて子ども食堂との共催によるイベントを開催。参加した地域の小学生48名が食育講座で学びを深め、「おにぎらず」「サラダチキンで作るバンバンジー」「野菜入りみそ玉みそ汁」の調理にチャレンジした。社外企業や関係団体と緊密に連携しイベントを盛況に終えることができた。 評価判定：到達

2030年　ありたい姿の実現

全　社　｜　生産本部　｜　業務本部　｜　営業本部　｜　経営管理本部

コーポレートメッセージ

すべての人を笑顔にしたい

真誠グループのコーポレートメッセージ「すべての人を笑顔にしたい」は、
一人でも多くの人が笑顔になれば、私たちも笑顔になれる、
そして、世界中に笑顔を広げていきたいとの想いを表現したものです。
この“すべての人”は、SDGsの原則である「誰一人取り残さない」
と共通する概念であり、わたしたちは、社会の中で善良たる
企業市民として存在しなければならないと考えています。

企業理念

真友の理想とする理念は「真心と誠実を貫き通す」ことにある。
人間を幸せにする健康を商品に託し、販売を通じて、健康文化を世界に広げていきたい。
そして、人々の健康を心から願い、その事自体に喜びを見出し、その達成に情熱を持ち続けよう。

名　　称	株式会社 真誠
本社所在地	〒481-8526　愛知県北名古屋市片場新町29 TEL：0568-23-3311 FAX：0568-22-4245
設　　立	1961年2月15日
代 表 者	冨田　博之
業務内容	ごま製品及び即席食品の製造販売
関連会社	株式会社 真誠インダストリアル・パーク 株式会社 真誠プランニング

編集後記

2024年1月から12月に実施したSDGs活動を取りまとめ、ステークホルダーの皆様にご報告いたします。環境への取り組みでは、生産過程における食品ロス削減の活動が日々の改善活動を通じて深化しています。社会への取り組みでは、食育イベントが胡麻の郷で開催されるなど、活動の幅が一層広がっています。そして、経済への取り組みでは、日本ゴマ科学会大会において当社が事務局を務め、ごまに関する研究の促進や知見の普及に貢献しました。これからも、すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に向けて、取り組みを一歩一歩着実に進めてまいります。

CSR・SDGs担当　　岸川 敏晴

WEBアンケート

ご意見・ご感想をお聞かせください。

真誠グループSDGsレポート2024をご覧いただき、誠にありがとうございました。
より良いレポートを制作していくために、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

こちらから
ご回答を
お願いします。

ShinSei

株式会社真誠

〒481-8526　愛知県北名古屋市片場新町29
TEL:0568-23-3311　FAX:0568-22-4245
https://www.shinsei-ip.ne.jp

FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C100107

VEGETABLE OIL INK

GREEN PRINTING JFPI P-B10023

Carbon Offset

【レポート報告対象期間】2024年1月～ 2024年12月
【発行】2025年2月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことであり、2015年９月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された国際目標です。

17のゴールと169のターゲットから構成され、2030年までに持続可能で「誰一人取り残さない」より良き世界を目指しています。